

生田緑地北側の谷戸で観察されたトンボ

Several Dragonflies Observed in Northern Area of Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki

岩田臣生

Tomio Iwata

生田緑地北側の谷戸ではホテルの里整備事業が2004年3月に完了した後に、水田ビオトープ班を新設し、田圃を再生(2004, 2005, 2006年)し、ハンノキ林直下の休耕地を湿地化(2005年)し、ハンノキ林の保全など、谷戸全体を湿潤な環境に戻す活動を進めている。この活動の中で観察、撮影されたトンボのうち、気になる数種の状況について報告する。

キイトンボ *Ceriagrion melanurum* Selys, 1876

2004～2010年の7年間に唯一2007年8月の田圃の周辺の湿地で1個体のみ観察された。
撮影 1♂ 21.VIII.2007 (図1)

オオアオイトンボ *Lestes temporalis* Selys, 1883

毎年10月頃までは谷戸の奥の林縁のアズマネザサの葉上などに観察され、やがて下流部の田圃周辺でも見られるようになる。2008年には12月になっても田圃周辺で観察されていた。
撮影 21.X.2007, 2♂ 3.XII.2008 (図2), 9.X.2009, 20.X.2009

コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys, 1886

毎年6月の一時期、木道わきなどで観察されている。サナエトンボ科最大の種である。多摩川で羽化した個体が羽化後の一時期を丘陵の谷戸で過ごしていると推定される。
撮影 1♀ 16.VI.2006 (図3), 20.VI.2007

オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus* (Oguma, 1926)

2009年7月10日に交尾中の個体を観察した。サナエトンボ科の日本特産種で、多摩川で羽化した後に多摩丘陵に移動していると推察される(雛倉・岩田芳, 2007)。第5次調査(苧部・岩田・昆虫班, 2003)に2000年7月30日の記録があるが、その後しばらく記録が無かった。
撮影 1♂1♀(交尾中) 10.VII.2009 (図4)

ヤマサナエ *Asiagomphus melaenops* (Selys, 1854)

谷戸の湿地に健在で、10～15個体が観察される。
撮影 24.V.2006, 15.5.2008, 21.5.2008, 10exs. 12.V.2009 (口絵図8-1), 10exs. 17.V.2010

リスアカネ *Sympetrum risi risi* Bartenef, 1914

谷戸の最奥の樹林に囲まれた池の周辺で晩夏の頃、1～2個体が観察されている。
撮影 27.VIII.2008, 31.VIII.2008, 1♂ 8.IX.2008 (図5), 24.IX.2008

マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum* (Selys, 1883)

湿地や田圃の周辺で10～15個体が観察されている。
撮影 ♂ 21.IX.2006, ♂ 22.IX.2007, ♀ 3.IX.2008, ♂ 8.IX.2008, ♂♀ 20.IX.2008 (図6)

ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* (Bartenef, 1912)

第5次調査(苧部・岩田・昆虫班, 2003)に2000年の採集記録があるがしばらく観察できずにいた。2009年に谷戸の奥の林縁で1個体を、2010年には湿地で2個体を観察している。
撮影 1♂ 12.VIII.2009 (図7), 2♂ 16.X.2010

謝辞

神奈川県立生命の星・地球博物館の苧部治紀氏、茅ヶ崎の岸一弘氏には、いつも写真同定をお願いするなど日常的に指導していただいている。この機会に謝意を表させていただきます。

参考文献

苧部治紀・岩田芳美・昆虫班, 2003. 川崎のトンボ 現状とその変遷. 川崎市自然環境調査報告書V : 418-429
雛倉正人・岩田芳美, 2007. 川崎市のトンボ類の記録. 川崎市自然環境調査報告書VI : 267-271

著者紹介

岩田臣生 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 水田ビオトープ班班長



図1 キイトンボ♂ (2007/8/1)



図2 オオアオイトトンボ♂ (2008/12/3)



図3 コオニヤンマ♀ (2006/6/16)



図4 オナガサナエ♂♀ (2009/7/10)



図5 リスアカネ♂ (2008/9/8)



図6 マユタテアカネ♂ (2008/9/20)



図7 ヒメアカネ♂ (2009/8/12)